



# 愛馬のためのカイバ道場

Vol.1

講師 朝井 洋 (JRAファシリティーズ株式会社 農学博士)

## 飼料給与の基本原則 — 健康維持とパフォーマンス向上のために —

今号より「愛馬のためのカイバ道場」と題し、競技馬の栄養と飼養管理に関する情報を連載させていただくことになりました。「馬術情報」愛読者の皆さん、よろしくお付き合い願います。

まずは簡単な自己紹介です。私は昭和55年に日本中央競馬会に入会、その後は多くの年月を競走馬総合研究所や日高育成牧場で勤務し、馬の栄養と飼養管理に関する調査研究やその普及に携わってきました。とくに力を入れた子馬からの「強い馬づくり」では栄養補給方法や日本の生産育成環境に適した放牧ならびに草地管理方法等について検討、提言してきました。また、JRA キャリアの最後には美浦トレセンに勤務し、厩舎関係者との情報交換を通じて現役競走馬の飼養管理についても理解を深める貴重な機会を得ることができました。そして本年3月、無事にJRAを定年退職し現在にいたっております。

競走馬と競技馬、乗馬との相違点は様々ですが、こと飼養管理に関する部分では共通するところも多々あります。競技馬、乗馬の実情を踏まえながら皆さんに役立つ栄養情報をわかりやすく伝えていきたいと考えています。

さて、記念すべき連載最初のタイトルは「飼料給与の基本原則」とさせていただきます、馬の飼養者なら誰もがよくご存じの内容をまずは広くおさらいしておきたいと思います。

### ・馬には牧草給与が大原則

馬は草食動物でしかも胃がひとつ、消化管の構造も栄養素の消化吸收システムも独特で、それらは必ずしも効率的なものではありません。一方、主食ともいえる草はガサ(容積)が大きい割にエネルギー価が乏しい飼料です。そこでハードな運動を強いられる馬では、一般的な量(消化管に負担を与えない量:体重の2-3%程度-水分を除いた量として-)では必要なエネルギー量がまかなえず、穀類や配合飼料を与えられるわけです。また、こうした飼料の一

部に代えてエネルギー価がさらに高い脂肪を添加する方法も最近では一般的になってきました。しかし、馬が要求するエネルギー量が多くなっても、馬の健康を維持するために必要な繊維は必ず摂取しなければなりません。1日に馬が食べる飼料全体の少なくとも半分(重量比)は牧草のような繊維が豊富な飼料が必要です。なぜなら、繊維が不足し穀類などの濃厚飼料が多くなると、疝痛のみならず胃潰瘍や蹄葉炎、タイイングアップ症候群などの発症リスクが増加するからです。これらの発症メカニズムについても今後の記事の中で紹介していきたいと思います。

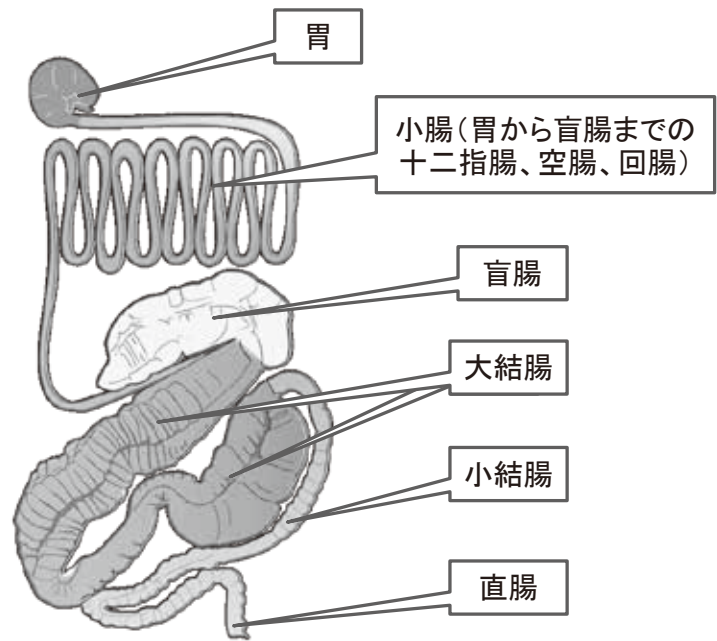
### ・食べ方、与え方も体調管理に影響する

エネルギー供給を目的として与えられる濃厚飼料(穀類や配合飼料)の1回あたりの給与量は多くても2kg以下にする必要があります。なぜなら、濃厚飼料に多く含まれる炭水化物(とくにデンプン)を処理する馬の消化管能力には限界があるからです。このような限界を超える給与が続くと、上で述べたような障害の発症リスクがさらに増大します。このことは1日に与える給与回数にも関連し、1日に濃厚飼料給与量が5-6kg以上を超える場合は、最低でも3回に分けて与える必要があります。また、競技の直前直後に与える飼料の内容や給与タイミングもパフォーマンスや疲労回復速度に影響を与えます。

### ・「ポパイのほうれん草」はあるか？

アメリカ漫画の主人公ポパイを知る人はすっかり少なくなったことでしょう。ポパイがほうれん草を食べると一気に力がみなぎり、悪人ブルートをやっつけるという毎回単純なストーリーながら、子ども心には勧善懲悪に加え野菜パワーを刷り込まれました。馬の世界にもこのような即効パワー飼料はあるのでしょうか？賢明な読者である皆さんがすでにご承知のとおり答えは「否」です。素質に加え、長期にわたる適切な栄養補給と効果的なトレーニングが

その馬の能力を開花させ増強させるのは言うまでもなく、スーパーホースは一朝一夕に出現しません。ここでいう「適切な栄養補給」とは、水分を含むすべての栄養素を発育状況や運動量が反映された要求量を充足させることです。こう書くとすごく大変なように思われるかもしれませんが、絶対的な給与方法があるわけではないながらも馬の栄養学が進歩した現代では、ポパイであろうとなかろうと馬に合った信頼できる飼料やサプリメントを吟味して選択しそれを適正量与え続けることが重要です。これらに関する話も追々紹介していきたいと思います。末永くお付き合いください。



馬の消化管の最大の特徴は、胃が小さく、大腸（盲腸や大結腸）が発達していることである。このため飼料の与え方にも注意が必要である。